

2014年度（36期） 事業報告書

自：2014年4月 1日

至：2015年3月31日



公益財団法人 関西盲導犬協会

京都府亀岡市曾我部町犬飼未ヶ谷18-2

2014年度事業報告書

(2014年4月1日－2015年3月31日)

公益財団法人 関西盲導犬協会

1. 公益事業部門

1-1. 盲導犬および視覚障がいに関する事業

(1) 盲導犬の貸与

①盲導犬貸与ならびに共同訓練

a. 盲導犬貸与数（実働盲導犬数）

2015年3月末現在、実働盲導犬数88頭（ユーザー数91人）であった。

b. 共同訓練

2014年度は12人の視覚障がい者に共同訓練を実施し12頭の盲導犬貸与を行った。詳細は次のとおりであった。

使用者証NO.	性別	都道府県	犬名	犬種	性別	貸与日	新規/代替
7361	男	大阪府	ハピネス	ラブラドル	雄	5月11日	代替
7362	男	滋賀県	フリッツ	ラブラドル	雄	5月30日	代替
7363	女	広島県	ハート	ラブラドル	雌	6月11日	代替
7364	男	福井県	エブリー	ラブラドル	雌	7月13日	新規
7365	男	兵庫県	アルフィー	ラブラドル	雄	8月4日	代替
7366	女	岡山県	ハミング	ラブラドル	雄	9月6日	代替
7367	女	高知県	エルフ	ラブラドル	雄	11月1日	代替
7368	女	京都府	ウーリー	ラブラドル	雌	11月3日	代替
7369	女	兵庫県	ジェイド	ラブラドル	雄	11月19日	代替
7370	女	大阪府	ロッタ	ラブラドル	雌	12月13日	代替
7371	男	京都府	ページ	ラブラドル	雌	3月7日	代替
7372	男	滋賀県	ニージュ	ラブラドル	雌	3月13日	代替

②公正な盲導犬貸与の実施

盲導犬貸与規程ならびに盲導犬貸与委員会規程に基づく公正な盲導犬貸与を実施することを目的に、盲導犬貸与委員会を開催し、盲導犬貸与申込者の選定ならび共同訓練に関する各事項の手続きの確認を行った。

第41回盲導犬貸与委員会（4月5日）

第42回盲導犬貸与委員会（5月11日）

第43回盲導犬貸与委員会（6月7日）

第44回盲導犬貸与委員会（7月5日）

第45回盲導犬貸与委員会（8月2日）

第46回盲導犬貸与委員会（9月6日）

第47回盲導犬貸与委員会（10月11日）

第48回盲導犬貸与委員会（11月8日）

第49回盲導犬貸与委員会（12月13日）

第50回盲導犬貸与委員会（2月7日）

第51回盲導犬貸与委員会（3月7日）

③盲導犬ユーザーへのフォローアップ

a. 盲導犬ユーザーに対するフォローアップ

フォローアップ専任職員を中心に、盲導犬ユーザーが安全で快適な盲導犬歩行ならびに生活が継続できるようフォローアップの充実を図った。2014年度のフォローアップ実施件数は216件（前年度204件）であった。

- ・定期 96件
- ・ファミリーリゼーション 22件
- ・共同訓練直後 13件
- ・犬の健康管理 38件
- ・犬の問題行動 38件
- ・その他 9件

また、昨年度に引き続き各地域在住の盲導犬ユーザーが参加できるグループフォローアップを実施した。テーマを「犬の健康管理と手入れ方法」として、6地区で行い、参加者は22名であった。

- ・大阪市 4名（2014年9月）
- ・広島市 3名（2014年10月）
- ・岡山市 2名（2014年11月）
- ・神戸市 4名（2015年2月）
- ・近江八幡市 5名（2015年3月）
- ・京都市 4名（2015年3月）

b. 盲導犬ユーザーへの情報提供

盲導犬の健康管理ならびに盲導犬ユーザーの負担軽減を目的に、ドッグフード・犬具・犬用薬品等について、例年どおり情報の提供を実施した。

(2) 盲導犬の育成

①繁殖

a. 2015年3月末の繁殖状況は次のとおりであった。

- ・当協会で生まれたパピー頭数 51頭（うち38頭をパピーウォーカーに委託）
- ・他協会から譲り受けたパピー頭数 6頭（北海道盲導犬協会3頭／中部盲導犬協会2頭／日本介助犬協会から1頭）
- ・2015年3月末の繁殖犬総数 23頭（内訳 オス 12頭／メス 11頭）
うち新規繁殖犬登録数 0頭

b. AGBN(アジア・ガイドドッグ・ブリーディング・ネットワーク)の実務担当者会議（3回開催）ならびに国際盲導犬連盟メンバーが主催した繁殖ワークショップ（2014年5月）に繁殖担当職員を派遣した。

②パピーの育成

a. 2015年3月末のパピーウォーキングの状況は次のとおりであった。

- ・パピーウォーカーに委託したパピー頭数 44頭
- b. 巡回指導およびパピースクール等の状況は次のとおりであった。
 - ・定期巡回指導 のべ 369件
 - ・パピースクール（24回、のべ245家族参加）

③盲導犬候補犬の訓練

パピー引き上げ時期の集約、訓練評価の定期化等、例年どおりの取り組みを実施した。

(3) 盲導犬の保健衛生管理

①盲導犬のケア

昨年度に引き続き、貸与後、特定の病気を有する盲導犬に対して療法食の補助を行った。

②繁殖犬・パピーのケア

初心者のボランティアを対象にしたパピーウォーキングセミナー（11月9日）を開催し、視覚障害ならびに盲導犬に関する知識を深められるよう講習会を実施した。

（参加者数22名）

③訓練犬のケア

クイールの会（ボランティアの会）ならびにボランティアの協力のもと、訓練犬のシャンプーならびに犬室の整備を実施し犬舎環境の改善を図った。

④リタイア犬のケア

リタイア犬（盲導犬を引退した犬）の飼育ボランティアと連携を取りながら、リタイア犬の健康管理や介護などの問題に対応し、リタイア犬が快適な余生を過ごせるよう努めた。

a. 2015年3月末のリタイア犬の総数は次のとおりであった。

・リタイア犬総数71頭

b. リタイア犬の医療等の支出について

2013年度3月末までに、リタイア犬のケアにかかる費用として、下記のとおり支出した。（合計3,314,748円）

・リタイア犬のフード代 1,078,849円

・ワクチン等の医療費 2,138,339円

・火葬費 97,560円

(4) 盲導犬訓練士および歩行指導員の養成

①盲導犬訓練士および歩行指導員の養成

盲導犬訓練士1名について、認定NPO法人全国盲導犬施設連合会から盲導犬歩行指導員の認定を受けた。（2014年10月1日）

②研修

下記、研修会等に訓練士、歩行指導員ならびに関係職員を派遣した。

a. 認定NPO法人全国盲導犬施設連合会が主催する研修会

・クレーム対応力向上研修会（2014年10月）

・盲導犬情報意見交換会（2015年2月）

・盲導犬歩行指導員等資格認定訓練士スクーリング（2015年2月）に職員を派遣した。

b. 国際盲導犬連盟主催のセミナー（2014年5月）

c. 視覚障害リハビリテーション研究発表代会（2014年7月）

(5) その他

①犬舎の移設

建物取得資金積立資産取扱規程に基づく犬舎の移設について、設計士を交え基本プランの策定ならびに施工業者の選定を行なっている。（2015年3月末、現在）

②ボランティアとの連携

a. クイールの会（ボランティアの会）ならびにボランティアの方々の協力のもと、訓練犬のケア・犬舎ならびに前庭の清掃等を定期的実施した。

b. リタイア犬ならびにキャリアチェンジ犬の活用（フレンドドッグ活動）

6名のボランティアの協力を得て、高齢者福祉施設等を訪問するフレンドドッグ活動を実施した。（のべ111件、前年比+12件）

1-2. 相談事業

(1) 盲導犬・視覚障がい者に関する問題に対する措置

2015年3月末までに受けた苦情は3件、相談は12件であった。

苦情に関しては、2件が盲導犬ユーザーが盲導犬を叩く等の目撃情報であり、うち1件は当協

会ユーザーであったため、状況確認のうえ指導を行い再発防止に努めた。

他の1件は飼育ボランティアが適切な管理をしていないことについての苦情であり、担当職員から改善の指導を行った。

相談に関しては、10件が盲導犬ユーザーから盲導犬の受け入れやユーザーへの対応に関する相談であった。飲食店やタクシーでの対応については改善を図ることができたが、病院や動物園での受け入れについては今後も継続した働きかけが必要である。また、事業者等からの受け入れに関する相談が2件あった。

①苦情内容ならびに件数（3件）

- ・盲導犬ユーザーの盲導犬に対する扱いについて（2件）
- ・飼育ボランティアの犬の管理方法について（1件）

②相談内容ならびに件数（12件）

- a. 盲導犬ユーザーからの相談（10件）
 - ・飲食店での受け入れについて（4件）
 - ・病院での受け入れについて（2件）
 - ・タクシーでの受け入れについて（1件）
 - ・動物園での受け入れについて（1件）
 - ・空港職員の対応について（1件）
 - ・その他の受け入れについて（1件）
- b. 受け入れ側からの相談（2件）
 - ・歯科医院での受け入れについて（1件）
 - ・スポーツ大会での盲導犬の処遇について（1件）

(2) 盲導犬に関する調査および研究

当協会の盲導犬ユーザーに対して、盲導犬満足度調査を実施した。67.0%の回収率で、2015年3月末現在、回答を集計中である。

1-3. 啓発普及事業

(1) 盲導犬の必要性ならびに身体障害者補助犬法についての啓発活動

①視覚障がい者に対する啓発普及活動

- a. 以下の団体からの要請を受けて、盲導犬の体験歩行を行った。

2014年10月 6日 京都ライトハウス鳥居寮
2014年11月28日 丹波青い鳥学級（兵庫県丹波市）
2014年11月30日 高知県身体障害者連合会
2014年12月12日 兵庫県視覚障害者福祉協会
2015年 1月12日 JRPS岡山県支部

- b. 機関誌「ハーネス通信」の点字・テープ・電子データ版を4回発行した。

（2014年4月1日、7月1日、10月1日、2015年1月1日発行）

②行政ならびに関係団体と連携した啓発普及活動

- a. 京都府身体障害者更生相談所が開催する視覚相談会、京都ライトハウスが開催する南部サテライト事業に職員を派遣し、盲導犬に関する情報提供を行った。

2014年 5月13日 京丹波町
2014年 5月21日 長岡京市
2014年 7月20日 与謝野町
2014年 9月 9日 綾部市
2014年 9月24日 宇治市
2014年11月14日 精華町

2015年 1月23日 長岡京市

2015年 3月10日 八幡市

c. 他団体と連携した活動

同志社大学で開催された視覚障害リハビリテーション研究発表大会（2014年7月）の会場で盲導犬との体験歩行を行った。

③一般市民に対する啓発活動

盲導犬ならびに視覚障がいについての正しい理解普及のため、啓発活動に取り組んだ。

a. 訓練センターの見学

- ・定例見学会（毎月第3日曜日） 参加者数 599名（前年度比+96名）
- ・その他の見学 52団体

b. オープンデー（2014年4月29日）

- ・参加者 約300名（雨天のため例年より参加者減）

c. 講演活動（学校・企業・社会奉仕団体等からの依頼）

- ・学校での講演 150件（うち27件は盲導犬ユーザーが講演、前年度比+47件）
- ・イベントならびに社会奉仕団体の例会等での講演と実演 43件（うち2件は盲導犬ユーザーが講演、前年比+14件）

④ホームページや機関誌による情報提供

ホームページや機関誌「ハーネス通信」等を通じて、身体障害者補助犬法に関する情報や、受け入れの基本でもある盲導犬ユーザーへの理解が深まるようなテーマを取り上げ、情報提供に努めた。

⑤啓発活動の新たな取り組み

スポーツイベント等を通じて、視覚障がい者、盲導犬ユーザー、晴眼者が共に学べるプロジェクトの実施について検討した結果、計画性ならびに費用面など、より具体性が必要との結論に達したため、2014年度の取り組みは中止した。

(2) 啓発に関する調査および研究

寺社仏閣・観光施設等での盲導犬ユーザーの受け入れ促進の調査について、同志社大学プロジェクト科目に応募し、2015年度のプロジェクトとして採択された。

2. 管理部門

(1) 安定的な事業運営のための働きかけ

①会員

2015年3月末の会員数は次のとおりであった。

総会員数 1,343件（2014年度3月末 1,236件）

- ・正会員 1,223件（前年度84件増）
- ・青少年会員 22件（前年度 1件減）
- ・法人会員 32件（前年度 4件増）
- ・後援会員 23件（前年度 1件減）
- ・マンスリー会員 43件（前年度 21件増）

②募金箱

2015年3月末の募金箱回収状況は次のとおりであった。

- ・2015年3月末の設置店舗数 2,083件（2014年3月末比較 127件増）
- ・回収金額 10,874,993円（前年度 9,857,303円）

③街頭募金

2015年3月末のクイールの会と協会職員による街頭募金を109回実施し、募金金額は12,851,918円であった。（前年度132回 15,045,004円）

④募金自動販売機の設置

2015年3月末の設置台数は66台（新規14台、撤去2台）であり、寄付額総計815,303円（前年度745,189円）であった。

協力企業（関西キリンビバレッジサービスグループ・アサヒカルピスビバレッジ・コカコーラウエスト・他3社）

(2) 職員体制の見直し

管理部門の強化を目的に訓練部門職員1名を渉外担当に異動した。

3. 施設整備計画

(1) 犬舎移設に伴う工事（予算110,000,000円）

2015年3月末、設計基本プラン等に着手中。

(2) 啓発用車両購入（予算500,000円）

公益財団法人日本財団への車両助成申請が受理されたため、盲導犬ユーザー送迎を主な使用目的としてた普通車を購入した。

総額1,642,043円（助成金1,260,000円、自己資金382,043円）

(3) 前庭等、敷地内整備資金ならびに1階トイレ・2階宿泊室改修 工事

2014年度11月の理事会において、建物取得資金積立資産取扱規程に下記の施設整備計画を追加し、2015年度の犬舎移設工事と同時期に行なう予定とした。

・犬舎移設に伴う前庭等の敷地内整備（予算25,000,000円）

・1階トイレ・2階宿泊室改修（予算17,000,000円）

(4) 犬舎建替え資金の当期積立

当期積み立て分5,000,000円を積み立てた。

4. その他

(1) 職員について

		正職員数	パートタイマー	資格取得年数
管理部門	管理・事務職	5	1	
事業部門	盲導犬歩行指導員	4		1999年1名、2002年2名 2014年1名 ※上記4名は盲導犬訓練士の有資格者
	盲導犬訓練士	2	1	2011年1名、2012年1名、 2013年1名
	パピー担当者	2		
	繁殖担当者	1		
	犬舎管理担当者		1	
	普及啓発	2		
計		16	3	

(2) 訓練士等のキャリアアップの状況

訓練士の訓練頭数ならびに視覚障がい者の歩行指導回数等、日本盲人社会福祉施設協議会の自立支援部会盲導犬委員会ならびに認定NPO法人全国盲導犬施設連合会の策定した基準に則り、訓練士ならびに歩行指導員を養成。その他に、国際盲導犬連盟、アジアブリーディングネットワーク、視覚障害リハビリテーション協会等の主催するセミナーや会合などに積極的に参加して、訓練技術や視覚障害に関する知識のキャリアアップを実施。

(3) 訓練について

犬のステージ	期間 (犬年齢)	訓練のステージ	担当職員	内容
子犬	生後 60 日～ 1 歳	パピーウォーキング	パピー担当	パピーウォーカー（子犬飼養ボランティア）宅での基本的な躰や生活
訓練犬	1 歳～ 約 2 歳	候補犬の訓練	訓練士 歩行指導員 犬舎管理担当者	直線歩行・障害物回避・段差発見・公共交通機関の利用・ステイ（待つこと）・生活訓練（食餌・排泄等）
	約 2 歳	共同訓練 (2 週間～4 週間)	歩行指導員	視覚障がい者と訓練犬との歩行訓練ならびに生活訓練
盲導犬	2 歳～ 10 歳	フォローアップ	歩行指導員	盲導犬ユーザーが安全な歩行かつ快適な生活を継続するために、盲導犬貸与後最低年 1 回のフォローアップを実施

(4) 施設について

①施設の場所

〒621-0027 京都府亀岡市曾我部町犬飼未ヶ谷18-2

②敷地面積

亀岡市曾我部町犬飼未ヶ谷18-2 (5,715.71m²)

亀岡市曾我部町犬飼未ヶ谷18-3 (2,486m²)

亀岡市曾我部町犬飼未ヶ谷18-4 (393m²)

亀岡市曾我部町犬飼未ヶ谷24-2 (105.98m²)

③建物

a. 訓練センター棟（鉄筋コンクリート2階建て） 826m²

事務所・厨房・食堂・ホール・宿泊室（7室）・犬用医務室・犬舎

b. 新犬舎（鉄骨平屋建て）犬室4室 94.60m²

c. ハーネス研修センター（木造2階建て） 宿泊室3室 厨房・食堂 122.84m²